



六中だより 1月号



学校の花 マリーゴールド
花言葉「健康」

開校45年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku> 全生徒数:701名

巳年(みどし)に新たな挑戦を！



—— 変化することに前向きさをもって

校長 影山 葉子

新年おめでとうございます。皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。昨年は、「よき新春を…」といった挨拶ができずにいた新年でした。昨年の元日に能登半島地震が起こったからです。その翌日には、羽田空港で大きな事故もあり、波乱の年明けだ、と何か不安な気持ちになったことをよく覚えています。

そして、この年末年始においても、特に能登半島の現在について、新聞やテレビで報じられていたことが印象的でした。まだまだ復旧・復興がかなわない被災地が多いことも、改めて知らされました。しかし、このような状況において、御家族などを失ったたくさんの遺族の方々が、悲しみや喪失感を抱えながらも、この新しい年が「災害のない穏やかな1年となること」を祈り、「少しずつ、前を向いていきたい。」と語っておられていることが伝えられていました。1年経って、ようやく少しずつでも、前に進もうとする被災者の姿に、私は胸を打たれました。

そのような中、計らずも今年が巳年(みどし)であることに私は、きっと意味があることだ、と感じました。それは、今年の干支は巳

年、蛇(へび)年ですが、この年は、「これまで努力してきたことが実を結び始める年」と言われているからです。さらに、蛇は脱皮することから、新たな挑戦や変化することにより前向きなる、とも言われています。そんな巳年の今年こそ、能登半島地震の被災者の方々が、前向きさをもって生活されることを願わずにいられません。そこで、私もこの年齢になっても、変化することに躊躇することなく、前向きさを忘れずに挑戦しよう、と気持ちを新たにしました。そして、六中生の皆さんも、この新しい年に、それぞれの新たな挑戦をする前向きさをもって臨んで欲しい、と願っています。この1年、共に頑張りましょう。

赤い羽根共同募金運動 たくさんの協力がありました。

12月の3日間、生徒会本部役員による募金運動がありました。ひんやりした朝の空気の中、呼びかけをする元気な声が上がっていました。

登校した六中生は、自分のお小遣いと思われる小銭を募金箱に入れていました。活動している本部役員も、募金する生徒も、どちらも笑顔で、とてもいい風景でした。もちろん、先生方も募金に協力しました。

募金は、能登半島地震での災害ボランティアを支援することに助成されるそうです。この募金活動が誰かの役に立っている、そう思うと、六中生を頼もしく感じます。



食育インフォメーション
だより。



ゆかり

新年を迎え、各御家庭では、お正月に相應しい食べ物を食されたことと思います。それこそ、年に一度しか食べないようなものもあるのではないのでしょうか。おせち料理やお雑煮はその代表格であり、子供たちに伝えたい和食文化の一つです。

私は、おせち料理は手作り派ではないのですが、昨年末に「くわい」という野菜をいただいたので、料理を試してみました(と言っても煮るだけです)。「くわい」は、その形から「芽が出て、縁起が良い」と言われ、おせち料理の一つです。そんな風にたくさんあるおせち料理の品目やその謂れなど、話題にして御家族で食べられるといいな、と思いました。さて、六中生はどんなおせち料理を食べたのでしょうか。

